

気象等に関する特別警報の指標 (発表条件)

「数十年の～」といった基準に基づき、気象等に関する特別警報を実施するための客観的な指標（発表条件）について、解説いたします。

なお、この指標（発表条件）については、特別警報の発表状況やその結果について適時検証していく中で、特別警報がより防災効果を発揮できるよう、必要に応じ適時改善・見直しを行っていくこととしています。

気象庁

各基準と指標（発表条件）との関係

現象	特別警報の基準	
大雨	台風や集中豪雨により 数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合※	
暴風	数十年に一度の強度の台風や 同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合※
高潮		高潮になると予想される場合※
波浪		高波になると予想される場合※
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により 雪を伴う暴風が吹くと予想される場合※	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合※	

雨を要因とする
特別警報の指標
(発表条件)

台風等を
要因とする
特別警報の指標
(発表条件)

雪を要因とする
特別警報の指標
(発表条件)

※：過去の災害事例に照らして、指数（土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量指数）、積雪量、台風の中心気圧、最大風速などに関する客観的な指標を設け、これらの実況および予想に基づいて発表を判断します。

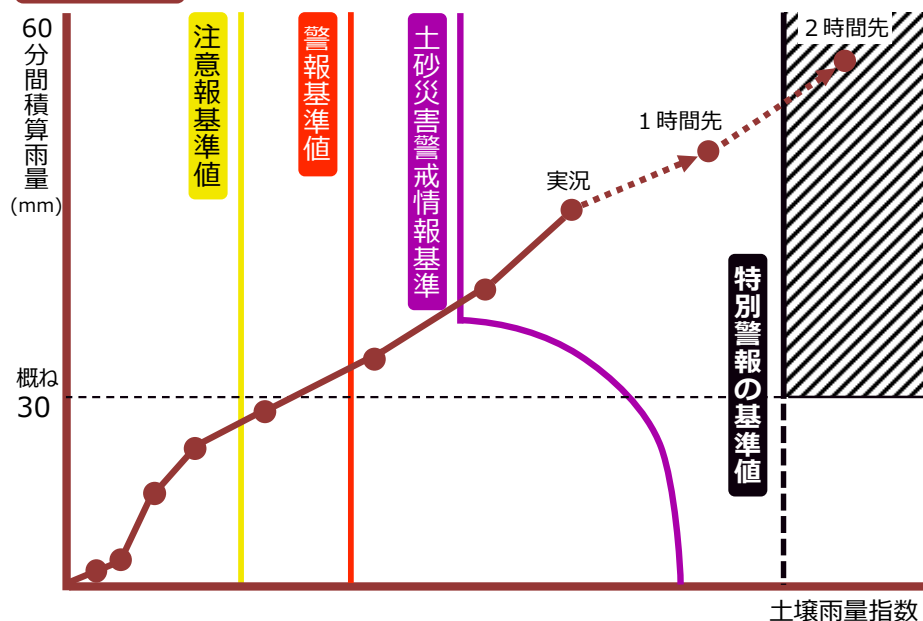
雨を要因とする特別警報の指標（発表条件）

大雨特別警報(土砂災害)の場合

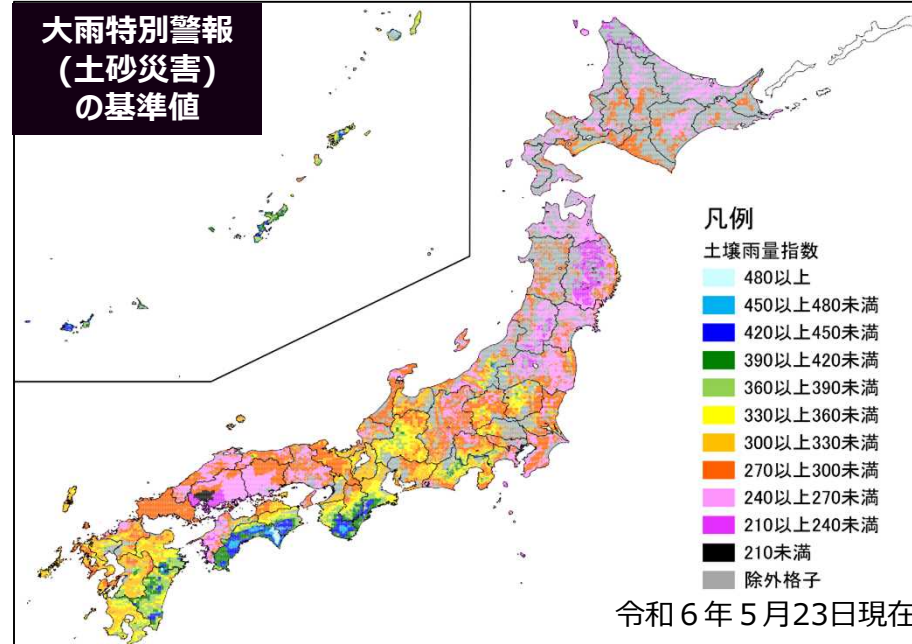
過去の多大な被害をもたらした現象に相当する土壌雨量指数の基準値を地域毎に設定し、この基準値以上となる1km格子が概ね10個以上まとまって出現すると予想される状況において、当該格子が存在し、かつ、**激しい雨※**がさらに降り続けると予想される市町村等に大雨特別警報(土砂災害)を発表します。

激しい雨※: 1時間に概ね30mm以上の雨

イメージ図



大雨特別警報(土砂災害)の基準値



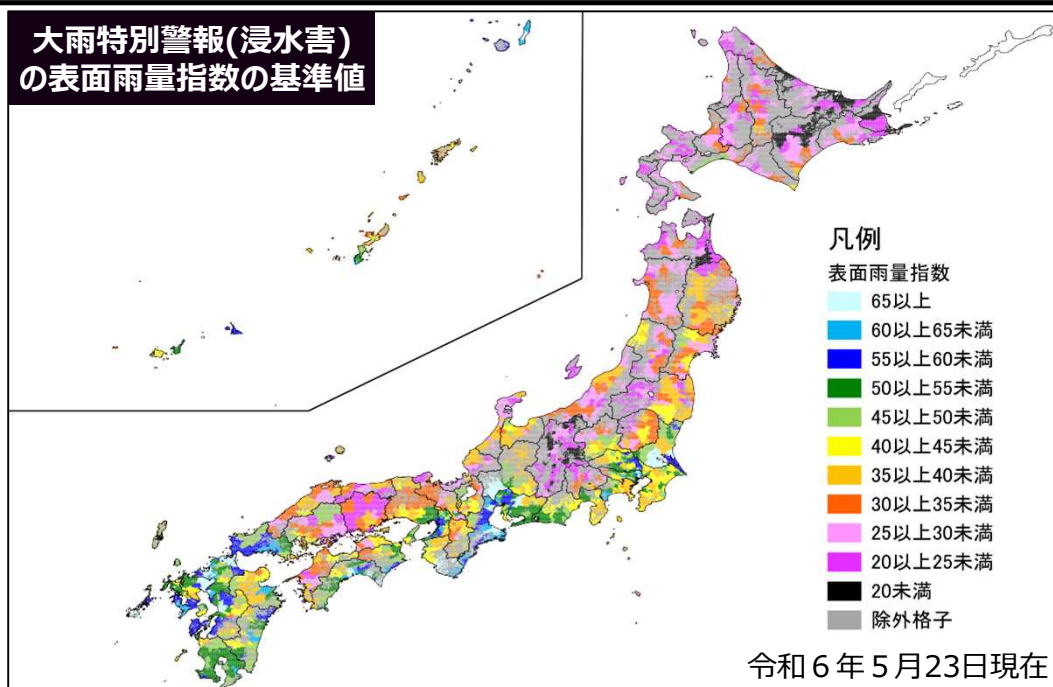
雨を要因とする特別警報の指標（発表条件）

大雨特別警報(浸水害)の場合

過去の多大な被害をもたらした現象に相当する表面雨量指数及び流域雨量指数の基準値を**地域毎に設定**し、以下の①又は②を満たすと予想される状況において、当該格子が存在し、かつ、激しい雨※がさらに降り続けると予想される市町村等に大雨特別警報(浸水害)を発表します。

- ① **表面雨量指数**として定める基準値以上となる**1 km格子が概ね30個以上**まとまって出現。
- ② **流域雨量指数**として定める基準値以上となる**1 km格子が概ね20個以上**まとまって出現。

激しい雨※: 1時間に概ね30mm以上の雨



指標（発表条件）を満たす主な事例

顕著な災害※を起こした自然現象の事例等が該当します。

(顕著な災害※：損壊家屋1,000棟程度以上、浸水家屋10,000棟程度以上)

発生年	月日	現象	死者・ 行方不明者	住家全半壊	住家浸水 (床上+床下)
平成18	7/15-7/24	「平成18年7月豪雨」	30	1,539	6,996
平成21	8/8-8/11	台風第9号	27	1,313	5,619
平成23	7/27-7/30	「平成23年7月新潟・福島豪雨」	6	1,074	8,940
平成23	8/30-9/5	台風第12号	98	3,538	22,094
平成23	9/15-9/22	台風第15号	20	1,558	8,567
平成24	7/11-7/14	「平成24年7月九州北部豪雨」	33	2,582	10,983
平成25	10/14-10/16	台風第26号	43	147	6,142
平成27	9/9-9/11	「平成27年9月関東・東北豪雨」	8	7,115	12,282
平成29	6/30-7/10	梅雨前線及び台風第3号 (「平成29年7月九州北部豪雨」を含む)	44	1,439	2,336
平成30	6/28-7/8	「平成30年7月豪雨」	232	17,636	30,480
令和元	10/10-10/13	「令和元年東日本台風」	94	31,579	29,556
令和2	7/3-7/31	「令和2年7月豪雨」	86	851	16,133
令和3	8/11-8/23	令和3年8月 前線による大雨	13	1,366	5,235

被害数は消防白書からの引用を基本としている。消防白書に記載のない事例の場合は、気象庁HPや理科年表、ほかの出典からの引用。

台風等を要因とする特別警報の指標（発表条件）

「伊勢湾台風」級(中心気圧930hPa以下又は最大風速50m/s以上)の台風や同程度の温帯低気圧が来襲する場合に、特別警報を発表します。ただし、沖縄地方、奄美地方及び小笠原諸島については、中心気圧910hPa以下又は最大風速60m/s以上とします。

台風については、指標（発表条件）の中心気圧又は最大風速を保ったまま、中心が接近・通過すると予想される地域（予報円がかかる地域）における、暴風・高潮・波浪の警報を、特別警報として発表します。

温帯低気圧については、指標（発表条件）の最大風速と同程度の風速が予想される地域における、暴風（雪を伴う場合は暴風雪）・高潮・波浪の警報を、特別警報として発表します。

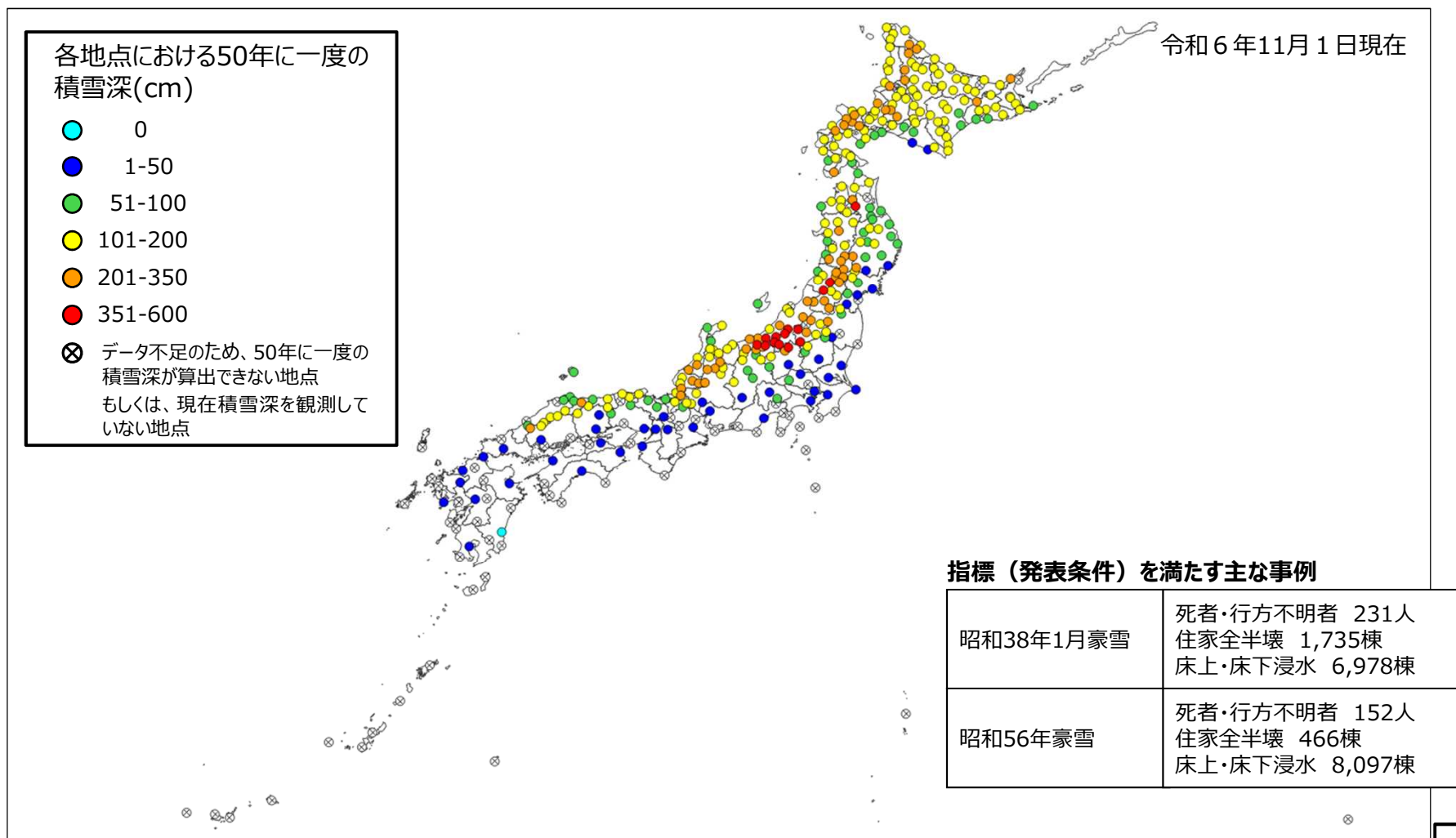
指標（発表条件）を満たす主な台風事例

名称	上陸時 中心気圧	上陸日・上陸場所	被害
室戸台風	911.6hPa	昭和9年9月21日 高知県室戸岬の西	死者・行方不明者3,000人以上 負傷者14,000人以上 住家被害9万棟以上 床上・床下浸水40万棟以上
枕崎台風	916.1hPa	昭和20年9月17日 鹿児島県枕崎市付近	死者・行方不明者3,700人以上 負傷者2,400人以上 住家被害8万棟以上 床上・床下浸水27万棟以上
第2室戸台風	925hPa	昭和36年9月16日 高知県室戸岬の西	死者・行方不明者202人 負傷者4,900人以上 住家被害6万棟以上 床上・床下浸水38万棟以上
伊勢湾台風	929hPa	昭和34年9月26日 和歌山県潮岬の西	死者・行方不明者5,000人以上 負傷者30,000人以上 全半壊15万棟以上 床上浸水15万棟以上
平成5年台風第13号	930hPa	平成5年9月3日 鹿児島県薩摩半島南部	死者・行方不明者48人 負傷者396人 全半壊1,784棟 床上浸水3,770棟

(注) 温帯低気圧については、上に挙げられている台風に匹敵するものが特別警報の対象となります。

雪を要因とする特別警報の指標（発表条件）

府県程度の広がりをもって50年に一度の積雪深となり、かつ、その後も警報級の降雪が丸一日程度以上続くと予想される場合に、大雪特別警報を発表します。



(注) 50年に一度の積雪深の値が小さな地域については、既往最深積雪深の値なども用いて指標(発表条件)を設定する。